

第1章 計画策定の背景

1. 子どもの読書活動の現状

子どもを取り巻く近年の社会では、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等のコミュニケーションツールの発達や多様化、スマートフォンの普及など、情報環境の大きな変化が見られます。平成29年度に行われた調査¹⁾によると、小学生から高校生までのインターネット平均利用時間は約159分で、平成26年度からの3年間の経年比較でも増加傾向にあります。

これらの情報化社会の進展により、多様な情報へのアクセスが容易化する一方で、視覚的な情報と言葉の結びつきが希薄になり、知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことが少なくなっているのではないかとの指摘もあり²⁾、このような状況にあって、読書活動は精査した情報を基に自分の考えを形成し表現するなど、新しい時代に必要となる資質・能力を育むことに資するという点からも、重要性が高まっていると考えられています。

しかしながら、子どもの不読率³⁾については、中長期的には改善傾向にあるものの、平成29年度に行われた調査⁴⁾によると、小学生5.6%、中学生15.0%、高校生50.4%となっています。

これらの社会的状況と読書活動の重要性を踏まえ、本市においても、子どもが自主的に豊かな読書活動を行うよう、子どもの読書活動の更なる推進が求められています。

1) 出典：「平成29年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」（内閣府）

2) 出典：「子どもの読書活動の推進に関する有識者会議 論点まとめ」（文部科学省）

3) 不読率…1か月に1冊も本を読まない子どもの割合。

4) 出典：「第63回 学校読書調査」（公益社団法人全国学校図書館協議会・毎日新聞社）